

# 中期経営計画「Growth with “Purpose”」

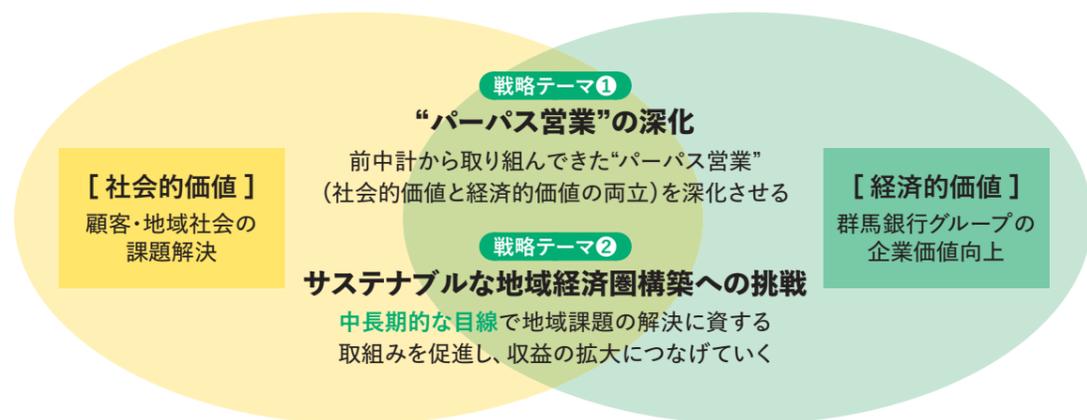
## ◆ 中期経営計画（骨子）

新しく策定した中期経営計画では、前中期経営計画で取り組んできたパーパスを基軸とした経営をより高次元にしていきます。「めざす姿」を「地域社会と当行グループの持続的な成長」と定め、テーマを「Growth」（成長）とし、中期

経営計画を通して「お客さま・地域」「当行グループ」「役員一人ひとり」の持続的な成長に取り組むことで、「株主の皆さま」をはじめとするステークホルダーの利益の実現を図っていきます。

2025年  
中期経営計画 **Growth with “Purpose”** ～地域と群馬銀行グループの持続的な成長に向けて～  
計画期間：2025年4月～2028年3月

## 基本方針Ⅰ | 社会的価値・経済的価値の好循環の構築



## 基本方針Ⅱ | 持続的な成長を支える事業基盤の強化

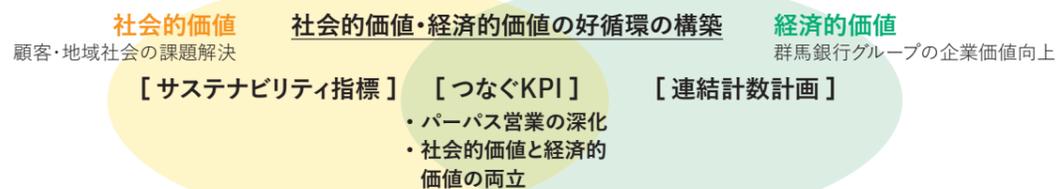
戦略テーマ  
①DX・業務改革 ②データ活用 ③人的資本 ④RORA経営 ⑤ガバナンス ⑥グループ連携・外部連携  
事業基盤を強化し、パーパスで掲げる「つなぐ」力を高める

## ◆ 中期経営計画（計数計画）

各計数計画は、中期経営計画の基本方針の1つである「社会的価値・経済的価値の好循環の構築」の達成を目指して設定しました。お客さまや地域社会の課題解決を通じて実現される「社会的価値」と、群馬銀行グループの企業価値向上により実現される「経済的価値」のそれぞれに対し、「サステナ

ビリティ指標」「連結計数目標」を設定しています。また、これらの両立に向けて3年間で重点的に取り組む定量的な目標を「つなぐKPI」として設定することで、KPI達成に向けた取り組みが、社会的価値・経済的価値の好循環を生んでいく仕組みになっています。

### 【戦略と各計数計画の位置付け】



【計画最終年度（2028年3月期）における連結計数目標】 金利の前提：政策金利0.75%（2026/3月期 下半期以降）で策定

項目（連結ベース）	中期経営計画（2028/3期）		補足説明
	目標	2025/3期比	
コア業務純益	800億円	245億円	資金利益＋非金利業務利益－経費 ※投信解約損益除き
非金利業務利益	350億円	94億円	役員取引等利益＋その他業務利益（債券関係損益除く）
親会社株主に帰属する当期純利益	600億円	161億円	損益計算書における親会社株主に帰属する当期純利益
グループ会社最終利益	60億円	26億円	親会社株主に帰属する当期純利益－銀行単体当期純利益
RORA	1.2%以上	0.2%	親会社株主に帰属する当期純利益／期首期末平均リスクアセット
OHR	45%程度	▲4.6%	経費／（業務粗利益－債券関係損益） ※投信解約損益除き
ROE	10%以上	2.3%	親会社株主に帰属する当期純利益／期首期末平均自己資本
総自己資本比率	13.5%程度	0.4%	総自己資本／リスクアセット
コアCET1比率	11.5%	▲0.6%	（普通株式等Tier1資本の額－有価証券評価差額金（益））／リスクアセット

【サステナビリティ指標】 社会的価値実現のため長期的に（10年後を見据え）目指していく指標。マテリアリティ（パーパス実現に向けた重点課題）を踏まえて設定。

マテリアリティとの関連	項目	2027年度目標	長期的目標	補足説明
地域経済の持続的発展	法人のお客さま1先あたりの労働生産性指数 *2024年度末時点を100として推移を開示	108.0 〔2024年度比8%増加〕	年率2.5%の増加を継続	労働生産性：（経常利益＋人件費＋賃借料＋減価償却費＋金融費用＋租税公課）÷従業員数 *国内の労働生産性（過去5年間で年率平均1.2%増加*）や物価安定目標を上回る水準の目標を設定
DXへの対応	個人のお客さま1人あたりの金融資産残高指数 *2024年度末時点を100として推移を開示	108.0 〔2024年度比8%増加〕	年率2.5%の増加を継続	金融資産：預金＋預かり金融資産（ぐんぎん証券含む） *3年間は当行グループの個人預金・預かり金融資産計画を踏まえ設定 *長期的には物価安定目標を上回る水準の目標を設定
地球環境の保全と創造	当行の温室効果ガス排出量 お客さまの温室効果ガス排出量前年比削減率 *計測可能先の排出量平均の削減率を開示	ネットゼロ（2030年度）	継続的に削減	内訳はScope1、2 計測可能先（事業者）の増加および排出量の前年比削減を図る
人的資本の充実	従業員のエンゲージメント指数 *2024年度末時点を100として推移を開示		持続的に向上	国内外で幅広く利用されているエンゲージメントサーベイの結果を開示

※公益財団法人日本生産性本部「日本の労働生産性の動向 2024」より算出

【つなぐKPI】 「パーパス営業」（社会的価値と経済的価値の両立）の深化に向けて、3年間で重点的に取り組む定量的な目標を「つなぐKPI」として設定。

項目	内容	目標	前中計実績比	補足説明
お客さまの事業を未来に「つなぐ」	事業承継課題解決件数（3年間累積）	1,500件	109件	事業承継に資する課題解決により収益化した案件数
	ビジネスマッチング件数（3年間累積）	4,000件	497件	当行グループ会社間のマッチング除く
	人材紹介件数（3年間累積）	350件	43件	「片手型」または「両手型」で成約になった件数
お客さまの資産を未来に「つなぐ」	住宅ローン実行額（3年間累計）	3,500億円	▲252億円	住宅ローンの実行額
	無担保消費者ローン残高（2028/3月末時点）	1,000億円	207億円	マイカーローンなど無担保消費者ローン貸出残高
	預かり金融資産残高（2028/3月末連結）	16,000億円	3,474億円	ぐんぎん証券を含む
	うち投資信託残高（2028/3月末連結）	7,000億円	2,513億円	ぐんぎん証券を含む
	積立投信契約月額（2028/3月末時点）	60億円	30.4億円	ぐんぎん証券を含む
	NISA口座稼働先数（2028/3月末時点）	10万先	3.8万先	NISA口座保有先のうち残高がある先（ぐんぎん証券含む）
相続関連支援件数（3年間累積）	2,000件	895件	遺言信託・遺産整理業務の成約件数	
豊かな環境・社会を未来に「つなぐ」	サステナブルファイナンス実行額（3年間累計）	12,000億円	716億円	環境・社会課題解決を資金使途とする投融資実行額
	脱炭素化支援件数（3年間累積）	1,000件	447件	脱炭素化に関する支援により収益化した案件数
地域のお金を「つなぐ」	キャッシュレス取扱高（2028/3月期）	3,500億円	830億円	群銀カードの決済取扱高

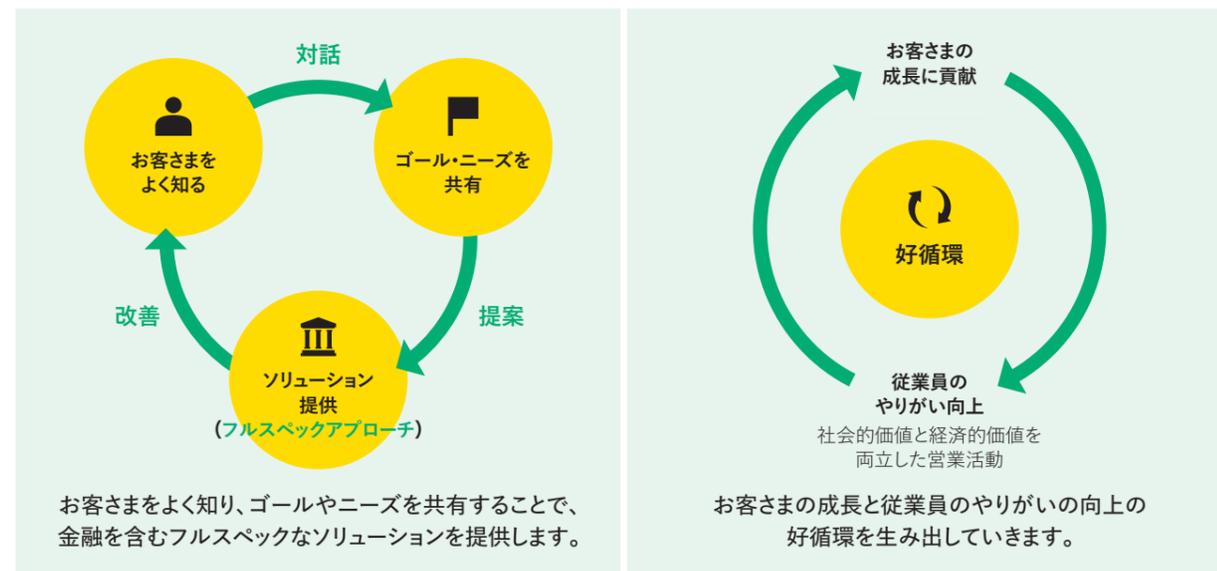
### ◆ 中期経営計画 基本方針Ⅰ 社会的価値・経済的価値の好循環の構築

パーパスの実現には、社会的価値である「お客さまや地域社会の課題解決」と、経済的価値である「当行グループの企業価値向上」を両立し、好循環を築いていくことが不可欠であると考えており、1つめの基本方針として「社会的価値・経済的価値の好循環の構築」を設定しています。

#### 戦略テーマ① パーパス営業の深化

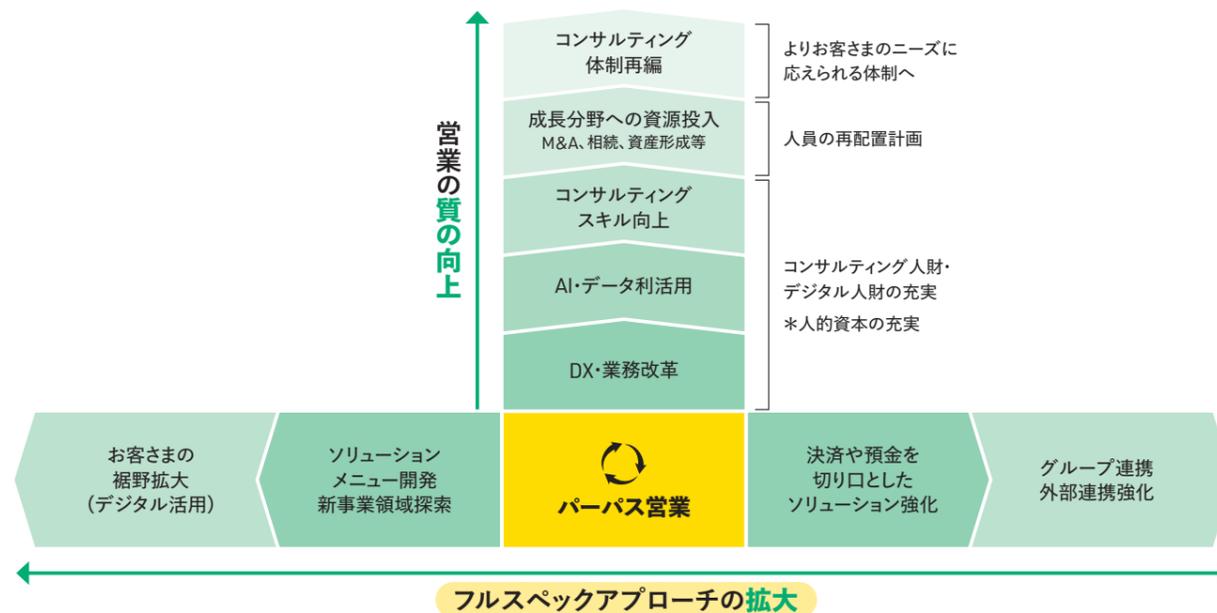
戦略テーマ①に掲げる「パーパス営業」の深化では、パーパス制定を機に取り組んできた、社会的価値と経済的価値を両立した営業活動を通じて、ソリューションの幅の拡大や質の向上に取り組んでいます。

【パーパス営業の概念】



【パーパス営業の深化】

横軸で示したように新たなソリューションの提供やお客さまの裾野の拡大などによって、フルスペックアプローチ（営業の幅）の拡大を図るとともに、縦軸で示したように、営業体制の見直しやAI・データの活用などによって、営業の質を向上させていきます。



### 戦略テーマ② サステナブルな地域経済圏構築への挑戦

戦略テーマ②に掲げる「サステナブルな地域経済圏構築への挑戦」では、中長期的な視点で地域と当行グループの持続的な成長をめざし、当行グループが地域のハブとなり「地域産業の持続性を高めるエコシステム」「地域企業の生産性を高めるエコシステム」「地域の生活を豊かにするエコシステム」の構築に取り組んでいます。

**当行が考えるサステナブルな地域経済圏(エコシステム)**  
当行グループが地域のハブとなり、地域内外のヒト・モノ・カネ・情報といった資源をつなぎ、地域の経済活動の好循環を築くこと

サステナブルな地域経済圏構築に向け、「パーパス営業」を深化させるとともに、中長期的な目線で以下の3つのエコシステムを築く

#### 地域産業の持続性を高めるエコシステム

地域の基幹産業への支援強化やスタートアップ、事業承継への取組み

- 自動車・食品・温泉など地域産業への直接的なアプローチ
- 自治体・地域企業・ファンド等と連携したスタートアップ支援や地域企業とのマッチング
- 自治体と連携した企業誘致
- ファンドを活用した事業承継

#### 地域企業の生産性を高めるエコシステム

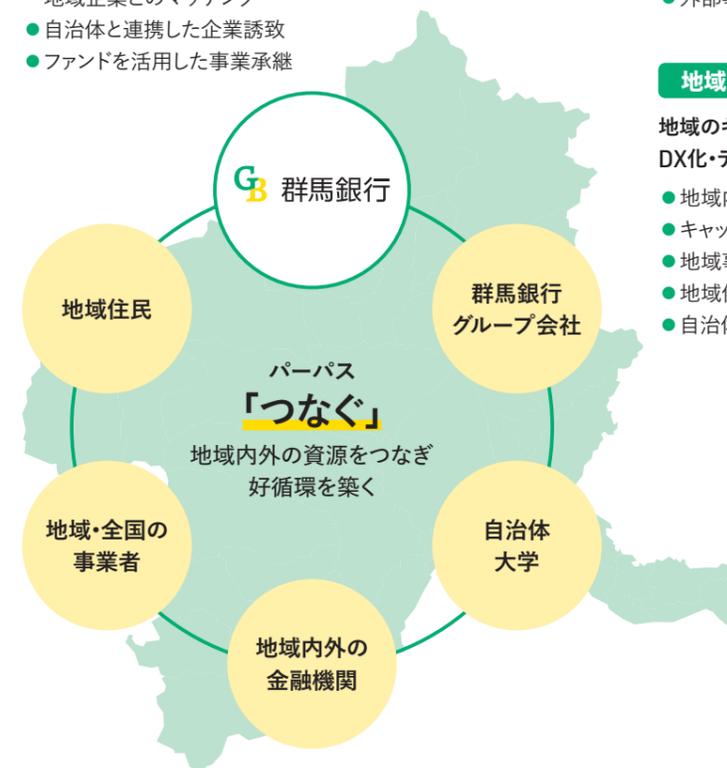
外部連携による事業領域の拡大を通じた地域課題の域内解決への取組み

- 地域事業者の生産性向上に資する新事業領域の検討
- BPOビジネスの展開等による地域のプラットフォーム構築
- 外部事業者との連携を通じたインオーガニック戦略の推進

#### 地域の生活を豊かにするエコシステム

地域のキャッシュレス化やDX化・データ利活用

- 地域内経済活動の効率化と透明化
- キャッシュレス決済やデータ活用
- 地域事業者の生産性向上
- 地域住民の利便性向上
- 自治体・学校等の業務効率化



#### サステナブルな地域経済圏に向け積極的な投資を行う

- スタートアップ  
～ベンチャーファンド等への出資～
- インオーガニック戦略  
～事業領域拡大に向けた投資～
- ぐんま地域共創パートナーズ(株)(P.55)を通じた出資
- 主要産業(自動車、観光等)や環境分野への投資

### ◆ 中期経営計画 基本方針Ⅱ 持続的な成長を支える事業基盤の強化

基本方針Ⅰで掲げる社会的価値と経済的価値の好循環を構築し、持続的な成長を遂げていくためには、その原動力となる当行グループの事業基盤を強化していく必要があります。

そこで、2つめの基本方針として「持続的な成長を支える事業基盤の強化」を掲げ、6つの戦略テーマに重点的に取り組んでいきます。

6つの重点テーマ	掲載ページ
①DX・業務改革の推進	P.42
②データ利活用の強化	P.43
③人的資本の充実	P.44
④“RORA経営”の実践	P.50
⑤ガバナンスの高度化	P.70
⑥グループ連携・外部連携の強化	P.52、54